

「(仮称) いわき市以和貴まちづくり基本条例」に係る意見等

委員名	意見等
西口 美津子 委員	<p>「共創」について、他の市町村との提携の可能性の検討についての提案</p> <p>いわき市は、国際姉妹都市であるオーストラリアのタウンズビル市との提携を深めており、たとえば、10月のシェークスピア劇の公演等、文化的にもレベルの高い交流を行っている。しかし、国内の他地域との提携については、秋田県由利本荘市や宮崎県延岡市といった少数の都市と親子都市や兄弟都市となっているに過ぎない。</p> <p>いわき市への国内観光客の集客、さらに国際観光客を共同でマーケティングを行うためにも、他の国内の都市と戦略的に提携することが有効であると考えます。</p> <p>たとえば、いわき同様に「湯本温泉」のある箱根町に隣接する神奈川県小田原市（実は、筆者の故郷）など、互いに共通点とまた相違点（たとえば、いわき市は城址やアクアマリンふくしまがあるが、小田原も城址と生命の星・地球博物館がある等）を有する都市と提携の可能性を模索してはどうだろう。小田原は国際観光のゴールデンルートの一部をなす箱根の入り口であることも魅力であると考えます。</p> <p>また、小田原市に限らず、近すぎず遠すぎない都市を提携先として選べば、交流を通して国内の安定した集客が可能で、さらに将来に向けた共同での観光客の創出（共創）も可能と考えます。</p>
林 清 委員	<p>市民の声を公平、平等に聞く一つ的手段として、13支所の出入り口に、市民の声受入れポストを設置されては如何と思料(量)致します。</p> <p>市民の方々の中には、表に出ないで、心の思考を文面で投書して、市政にいくらかでも寄与したい方が数多く居ると推量します。</p> <p>市民の陰の声を聞いて下さるのも市政上、一つ的手段と考えます。</p> <p>受入れポストの脇には、投函用紙を置き、記名又は無記名で市民の自由意志で投函して頂き、支所では、月に1回か又は2ヶ月に1回集票して、支所側で下見をして本庁での支所長会議等で支所別の市民の声の発表をして、採択若しくは不採択なされて、後日、広報誌等で市の考えを発表できれば、市政と市民の声が一体になるものと考えます。</p>
諸橋 健一 委員	<p>条例の基本的な考え方については、おおむね、よろしいかと思えます。</p> <p>ただ問題は、この条例を実効のあるものとするための手段の確保をどうするかです。これがなければ、条例は画餅となってしまいます。人が減り、金がない中での取り組み、課題は山積みと思えます。情報の共有、市民の参画の具体的な方法、連携など。</p> <p>市の役割にしても、職員が減らされていく中、人口が減れば税収も減る。行政規模も縮小しなければなりません。管理職を減らし、現場職員を増やす。管理職は地域と密着し、御用聞きを日課とするぐらいなことは必要で</p>

	<p>しょう。議会にしても定員を減らし、報酬を日当制にするなど、早急に考えておかねばなりません。</p> <p>次世代をどう育てるかも重要です。カギは教育にあると思います。教育は若者が集まってくる理由にもなるし、出ていく理由にもなる。地方を元気にするのは、「よそ者」、「バカ者」、「若者」の力が必要といわれています。いわきにも都会からの移住者が結構います。移住者は何かやろうとしている人が多い。これらの人財を活用しない手はありません。予算の制約、少子化に伴う人財不足。みんなでガンバルしかありません。理想は、夢は、大きく持っていていいと思います。</p> <p>敵情報告。ここから情報という言葉が生まれたと言われています。私の「いわき地域環境科学会」の目的は、情報と知識の共有にあります。行動団体ではなく考える会です。環境を良くする方法は、徹底した調査と対策の繰り返し、これしかありません。まちづくりも、環境を良くするのも同じことです。</p> <p>バスケットボール競技にピボットというのがあります。軸足を変えないで方向を変えることです。一回やってみて、ダメなら別な方法を。試行錯誤しなければダメだと思います。環境は常に変化しています。私たちも変わる必要があります。</p> <p>私の住んでいる中山間地、高野にも色々課題があります。でも、地域の連携という点では、今のところうまくいっています。区長、組長のなり手はいますし、春秋の清掃デーにもほとんどの人が参加しています。お祭の運営もうまくいっていますし、新年会などの行事も盛んに行われています。しかし、10年後のことを考えると、心配になってしまいます。少子高齢化の波は確実に押し寄せてきていますし、このままいけば、マチと同じようになるのは明らかです。</p> <p>行政は平等を重んじます。どの地域も平等に、この考えは、みんなあまねく、ということになり、結局何もできなくなる。だから、当面やれるところからやるということではないのでしょうか。</p> <p>私のいわき地域環境科学会は、「バカ者」の集まりです。会の目的である情報と知識の共有という面では、まちづくりに協力できることは多いかと考えています。</p>
金子 隆子 委員	<p>①いわき市「以和貴」まちづくり基本条例</p> <p>以和貴が聖徳太子の和を以て貴しとなすからの願いが込められていたという深い意味があったことを、今回、知ることになりました。</p> <p>昨年でしたか、勤務先の認知症カフェの案内ポスターでも、オレンジカフェ以和貴があり、当て字か、ごろあわせかなと思っていました。違和感もあります。しかし、私と同じ思いをする市民もいるのではないかとも思っています。</p> <p>そのものずばり、「いわき市共創のまちづくり基本条例」ではどうでしょうか。</p>

②ふるさといわき 21 プランの 3 ページには取り組む項目を「地域創生」と「復興」とあります。東日本大震災と原発事故を経験しているいわき市民のまちづくりのなかでは、はずせないのではないのでしょうか。後期基本計画にももりこまれております。

これを、基に全国どこにもない今の状況を見据えて、まちづくりにもりこみ、今後を歩んでいかないと考えます。

民間と行政が、民間は命かながら逃げてきた双相の方々も当然入った民なので、日本の他市のまちづくりは参考にならないのではないのでしょうか。

今回の中身はあえて、原発をさけている中身ではないかと、思っています。

現在のいわきの現実を見据えたまちづくりの条例案を希望します。

③総合戦略と政策展開イメージ図

創生の医療人材確保の他に、健康増進を入れて頂きたいです。

乳がん検診、子宮がん検診、肺がん検診 etc ご存知でしょうが、いわきの受診率は、福島県内でもワーストです。

塩分の取りすぎ、性感染症、課題は山積み。

梅毒の件はご存知でしょうか。いわき市は梅毒発生件数が上半期で昨年を上回ったのです。

現場の医師や医療職は危機感でいっぱいです。